

令和6年度三島市食育推進会議 会議録

日時	2024年8月27日(火) 14:00～15:30
場所	三島市保健センター東館1階
配布資料	【事前送付資料】 <ul style="list-style-type: none">・会議次第・資料1 第2次三島市健康づくり計画実施計画(令和5年度)実績報告・資料2 第2次三島市健康づくり計画実施計画(令和6年度) 【当日配布】 <ul style="list-style-type: none">・席次表、委員名簿・資料3 令和6年度食育推進事業について・第2次三島市健康づくり計画の冊子

1 委嘱状交付

6名に交付(うち欠席者2名には後日郵送)

2 市長挨拶

本日、三島市食育推進会議を開催したところ、委員の皆様方には、ご多忙の中ご出席いただき厚く御礼。去る6月7日に農林水産省から公表された「令和5年度食育白書」では、子供・若い世代を中心とした食育の推進が特集されており、その中で、子供や若い世代の「朝食欠食率」や「食育への関心の低下」が指摘されているが、本市でも同様の課題を抱えている。子供の基本的な生活習慣づくりのためには、地域、学校、民間団体が家庭と連携・協働して取り組んでいくことや、社会全体の問題として捉えていくことが必要。本市では、コロナで休止していた「学校給食地域絆づくり交流事業」を再開する。この事業は、学校や地域の方の交流や食への理解促進などを目的に、地域の方に学校にお越しいただき、学校給食を試食しながら交流を深めていただくもの。また、新たな取り組みとして「みしまるごはん事業」を開始する。この事業は、健康に良いメニューを提供する市内の飲食店にご協力をいただき、そこで飲食した方に健幸づくりアプリKENPOSのポイントを付与するもの。健康や食育に無関心な方でも、楽しみながら自然と健康になれるようにすることを目的としており、本日の意見交換のテーマ「誰もが自然に健康になれる食環境づくり」にも関連する。本日は、本市の取組に対しまして、また、検討テーマについて、委員の皆様方には、それぞれの専門的見地から、忌憚のないご意見・ご提言をお願い。

3 会長挨拶

毎日毎日殺人的な暑さが、9月に入って少し落ち着くかどうかというところ、国の方は、第4次の食育推進計画が始まっており、その中ではSDGsという問題、誰1人取り残さないということで、大きく計画が加わってきている状況。

昨今のこの異常気象や、地球温暖化、最近ではお米が品不足、地震の状況など、非常に不透明な問題が多くあり、しばらく前はそのコロナで全く食育の活動ができない状況だったが、今後も食べるということは、食育は栄養教育ではありませんので、農業、商業など共同して行うという事業になりますので、今回新たに委員になってくださった方もおられますので、忌憚のないご意見をいただきながら、本日進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

4 議事

(1) 第2次三島市健康づくり計画(食育基本計画)令和4年度実績について(資料1)

(2) 第2次三島市健康づくり計画(食育基本計画)令和5年度実施計画について(資料2)

<事務局説明>

<各課長説明>

<質疑応答>

【A委員】若者の生活スタイルに合わせた食習慣の実践として若い女性やせの対策に取り組んでいるとのことだが、国でも、若い女性の“やせ”は骨量低下による寝たきりリスクの増加、低出生体重児など次世代への影響もあるので重要な問題とされているが、対策は非常に難しいと思っている。三島市は先駆的に取り組んでいると思うが、取り組み状況や成果はどうか。

⇒【成人保健係栄養士】日本大学国際関係学部で食育出前講座を実施し、若い方は食事のバランスが悪くなりがちで、やせすぎていることから、低栄養や骨粗しょう症のリスクがあることを伝えた。反応としては、アンケートの結果から、朝食を欠食している学生から、やせたい、きれいになりたいという前に、朝ご飯をしっかり摂って自身の健康に気を付けていきたい旨の回答があった。

【B委員】BMIが25以上の男性の割合が、目標と実績が乖離してしまっている。全国的な傾向かもしれないが、原因は。

⇒【健幸推進室長】原因ははっきりとは分からないのが実情だが、おそらくコロナもあったかと思っています。働く世代に対し、我々がアプローチしづらい世代でもあり、まず、健康に無関心、食生活に無関心であったりするので、例えば行政が健康講座や食育講座を企画しても、こういう人たちは出てこない。行政が提供する情報提供やサービスに、乗ってこれない

方々ではないかと思っています。その対策として、健康経営と連携をして働く世代特に、男性の方々に少しでも食の大切さを理解していただきたいということで、各企業さんを回りベジメーター測定をやって、自分の食生活がどうなのかを、見直していただくことからスタートしているところ。

【C委員】肥満は、食事だけではなく運動との釣り合いの問題。食だけでなく、運動に関して市の計画はどうか。また、ベジメーターの結果についてはどんな具合でしょうか。

⇒【健幸推進室長】まず運動につきましては、食生活と同様、この世代はでなかなか運動する機会がない。そもそも運動が嫌いとか興味がないとかっていう方々になりますので、そういう方々に運動教室とかスポーツ教室とか、そういうのをやってもですね、興味がないので来ないということになります。健康経営の中でも運動の講座なんかはですね、取り入れてやらせていただいたりします。また、そういう働き世代をどうやったら引っ張り出してくれるかということで、いろいろ考えまして、働き世代が、行動する原理みたいなところで、子どものためなら動くんじゃないかということで、子どもを対象にした運動遊びのイベント「みしまあそVIVA!」を開催し、親子でコミュニケーションをとりながら運動する機会を提供することで、働き世代を引っ張り出してくる。というようなことを始めたところ。ベジメーターの成果については、後ほど資料3で担当から説明がございます。

【C委員】令和6年度の指標による評価は、ほとんど遅延というのは、令和8年までの目標に対しての進捗がゆっくりであるというふうなとらえ方ということでしょうか。

⇒【健幸推進室長】その通りです。表の見方ですが、目標値が令和8年度で、現状値から目標値に向かって傾斜配分で設定したものが期待値となります。期待値を超えていれば順調、遅れていれば遅延と評価している。現状、食育の関心のところ以外は遅れている。特に、バランスのとれた朝食をとっている子どもの割合と、男性の肥満の遅延が顕著。

⇒【C委員】朝食のバランスをとってというのは、非常に難しいのが現実だと思う。1日の中でバランスをとるという考え方も今の食生活の中ではあるのかもしれない。また、男性とか女性の肥満とか年齢幅が40から74というふう非常に幅が広いので、若い人は運動に対してあまり関心がないみたいなお話だったが、逆に60歳を過ぎてくると、運動している人たちは多いと思うので、目標値を年齢で分けてみると問題点が見えてくるのではないかなと思いました。

(3)市の主な食育関連事業について

<事務局説明>(資料3)

<質疑応答>

【C委員】タブレットを使った小学校での授業ですけど、対象は何年生か。自宅でもアプリは利用できるのか。

⇒【健幸推進室栄養士】5年生でした。アプリは無料で自宅でも利用可能です。

【C委員】小さな子どもでも、幼児であっても、逆に小さな子どもの方が自由な発想で、非常に面白かったりするかもしれない。また、若いお母さん方は興味のある人は、インスタなどで紹介したりもするのではないかな。子どもたちを通じて、保護者(若い世代)の関心も高められるのではないかなと思いました。

【E委員】お母さんたちの作ったお弁当を見ると、とても一生懸命。幼稚園でも、そのアプリは、何も許可が要らないで自由にできるのか。

⇒【健幸推進室栄養士】許可は要らず、自由に利用できる。

(4)意見交換 テーマ:誰もが自然に健康になれる食環境づくりについて

<意見交換のテーマについて趣旨説明>(資料4・健幸推進室栄養士)

【A委員】食育のまちづくりに繋がる面白い取り組み。

話は変わるが、野菜作りをしている人は野菜の摂取量が多いと聞く。近所に配っても余ってしまった野菜を欲しい人に配れる仕組みがあれば面白い。

減塩＝美味しくないというイメージの人が多いと思うが、「適塩」と言い換える自治体もある。薄味を標準に、ふつう味を「濃い味好きの人へ」とすれば、自然と健康になれると思う。具体的な事業は思いつかないが、そのようなことが出来ればよいと思いました。

三島市の新しい取り組み(みしまるごはん事業)に近い取り組み事例として、香川県三豊市というところで、「地域の健康社員食堂」という取り組みがあり、中小企業の福利厚生を行政が助ける仕組みがある。健康経営を目指す企業の社員食堂として地元ヘルシーメニューを提供するお店と連携し、健康づくりと地域づくりを進めている面白い取り組みで参考になると思う。

【D委員】みしまるごはんメニューは、良い取り組みの基礎ができたと思っているが、市民に情報が伝わらないと行動が変わっていかないと思うので、市民に届く形でPRしていただきたい。SNSでのPRが主になってきているが、それぞれのSNSで所属する年齢層が違うので、ターゲットに合わせて手段を選択すると良い。

公民館のマンゴーの講座は、娘が高倍率のところ当選し喜んでた。生産者の話や地域の洋菓子店の方から作り方の話を聞けてとても良い内容。このような子供向けの取り組みも、ぜひ続けてほしい。

【F委員】健康診断はとても大事だと思っている。中伊豆温泉病院で人間ドッグ受けて、その後の食事がおいしくて、それ目当てに行ったりしているが、三島でもそのようなことが地場の野菜を使った取り組みとしてあると良い。

【C委員】誰でも手軽に健康に良いものを食べられるものを、三島コロッケのように売り出したらどうか。みしまるごはんはどれもおいしそうだが、少し高額で中高年の男性は足を運びにくい。リーズナブルでおいしいものを募集しても良いかもしれない。

【G委員】ベジメーター測定で結果の悪かったひとへの意識を変えるためのアプローチは、どのようにしているのか。

⇒【健幸推進室長】測ったときにスコアという形で、数値で出て参ります。その数値によってABCDという形で評価がされる。Aであれば1日350グラム以上摂取しているということになるので、そのより下のBCDEの方々には、あとどれだけ食べたらAになるのかを、わかりやすくお伝えするように心がけている。

【G委員】男性がどのようにして食べるか、わからないことが多いのではないか。例えば、レシピとか、おいしい野菜を置いておいて食べてもらうとか、何かそういう行動変わるきっかけがあった方が効果的に運用できるかと思う。

【H委員】朝食調査では、当初よりも大分意識が変わり、朝食を食べる子どもの割合は、現在90%台後半で高止まりの状況だが、栄養のバランスが良くなく、改善しない状況。要因として家庭の親御さんの部分というがあるので、学校の方では、家庭科の時間や様々な食育の機会を通じ、子どもを通して、啓発をするというような発想になっている。子どもをターゲットにしてその後ろにいる保護者にアプローチする発想は大事だと思う。

また、F委員からお話のあった健康診断の時の食事ですが、私の友人も健康診断の時の食事を調べて、食事がおいしいところを選んでいった。私の行った人間ドックでは、食堂が無いので食事のカードをくださるのですがいろいろなお店を選択できました。三島市ではいろいろなお店と連携しているので、ヘルシーメニューを提供するお店との取り組みがあると嬉しいなと思いました。

【C委員】味噌汁を作るときに、別に出汁をちゃんととらなくてもだしの素で全然OKだと思う。

最近若い人はみそ汁を作らなくなっているような気がして、味噌汁だったら何でも放り込めば、バランスのいい食事に、ご飯と味噌汁でいけるかなあと思ったりもする。先ほど男性もどうやって食べたらいいかわかんないって言ったときに、具のお味噌汁みたいな形だったら、簡単に組みめるかなと、ちょっとお話を聞いて思います。

5 その他

・事務連絡

閉会